



(一社)中部地質調査業協会

理事長 **鈴木 太**

巻頭言

令和2年度は、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、不安と恐怖を感じながら、国からの外出自粛要請、マスク着用、うがい、消毒、手洗いの励行など感染症対策に振り回され、また3密回避の観点から多くのイベント催しが中止や延期を余儀なくされた一年でした。

上部団体に当たる一般社団法人全国地質調査連合会では、地質調査技士の試験が中止に、そして登録更新講習会はCDでの受講に変更されました。当協会においても、60周年事業の延期や様々な講習会、勉強会の中止など、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年になりました。

このような状況の中、徹底的な感染症対策を取りながら中部ミニフォーラムおよび国土交通省中部地方整備局との意見交換会を10月に開催いたしました。これらが開催できたのは、関係者各位、参加者、スタッフのご尽力の賜物だと感謝申し上げます。

なお、今回の「土と岩」69号の中には、これらイベントの概要をお知らせするため、中部ミニフォーラムの優秀論文2編と、意見交換会の議事内容を掲載しております。

さて、コロナ禍の中においても、日本各地では、毎年のように地球温暖化による気候変動で豪雨災害が起こっています。このような社会環境の中、防災、減災、国土強靱化に向けて、国も今後5年間で15兆円を目途に対策を実施することなどを表明しています。

我々、地質調査業は外業(フィールドワーク)と内業(デスクワーク)に分かれており、外業は感染症対策を施しながら進めており、内業については、リモートワークにより業務を進めています。今後は、このコロナ禍の中、働き

方改革、ICT(情報通信技術)などを積極的に取り入れながらピンチをチャンスとしてとらえ、特に現場では何ができるか、何が効率化かを多様な場面で情報発信し、意見交換していきたいと考えています。また、内業についてもWEB会議などを取り入れながら業務の効率化、生産性の向上に向けて努力していきます。また、担い手不足、従業員の確保についても我々の業界では大きな問題となっています。働きやすい業界にしていけるためにも、若手の人材育成を一番に行動していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の今後の状況にもよりますが、令和3年10月12日には、昨年延期した60周年記念式典、講演会・祝賀会を開催する予定であり、現在、特別委員会を設けて準備を進めているところです。

今後も、一般社団法人中部地質調査業協会 正会員数59社、賛助会員8社、愛知・岐阜・三重・静岡の4県支部協会で活動しています。技術の研鑽を継続し、種々の課題を克服して業務の品質を高めるとともに、新しい技術を習得し、地盤の専門家(ジオ・ドクター)として、安心・安全に暮らせる国土形成のため、重要な役割を担っていきますので、今後ともより一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今回「土と岩」69号発刊に伴い編集委員長始め、寄稿頂ける2人の先生、関係者各位、この新型コロナウイルス感染拡大の中、協会発足時から発刊を続けることができたことに感謝申し上げます、少しでも多くの方に拝読いただけることを望みます。

目次

01 ▶	巻 頭 言	1
02 ▶	寄 稿	
	豪雨災害から感じた相互協力体制の必要性	4
	□ 岐阜大学 工学部附属インフラマネジメント技術研究センター 教授 沢田 和秀	
	繰返し三軸試験を用いた低盛土道路における 交通荷重の影響検討	12
	□ 株式会社シマダ技術コンサルタント 技術管理部長 坪田 邦治	
03 ▶	令和2年度	18
	地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会	
04 ▶	中部ミニフォーラム2020	
	中部ミニフォーラム2020の概要と講評	27
	□ 技術委員長 土本 浩二	
	優秀論文賞	
	1) 地すべりにおける地すべりブロック推定の事例	28
	□ 基礎地盤コンサルタンツ株式会社 福寄 秀昭	
	2) 粒度(沈降)分析における砂分の影響について	30
	□ 中部土質試験協同組合 大橋 翔	
05 ▶	散文 身近な地質スポット【第三弾】	32
	□ 編集委員会・ホームページWG 一同	
06 ▶	常設委員会報告	40
	・総務委員会 ・研修委員会 ・女性活躍推進ワーキング ・広報委員会 ・技術委員会 ・防災委員会 ・編集委員会 ・ホームページワーキング	
07 ▶	読者アンケート結果・読者アンケート	52
08 ▶	会員名簿	54
09 ▶	会員広告	56
10 ▶	編集後記	64